

令和元年度指定 文部科学省事業

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）

第3年次 研究開発実施状況報告書

挑め、ともに!

Photo by Zen Watanabe

管理機関名：白い森人創生プロジェクトチーム

代表者名： 山形県小国町長 仁科洋一

住所： 山形県西置賜郡小国町大字小国小坂町 2-70

地域との協働による高等学校教育改革推進事業を終えて

白い森人創生プロジェクトチーム

代表 山形県小国町長 仁科洋一

日本の各地で、少子高齢化を伴う人口減少、社会資本ストックの老朽化、地球環境問題の顕在化など多くの課題が山積しております。教育分野においても、新型コロナウイルスへの対策や、学校の統廃合、学びの個別最適化への対応など課題が多様化・複雑化しております。

こうしたなか、国では平成29年3月に地域と学校の連携・協働の推進に向け学校運営協議会の設置を努力義務化するとともに、地域全体で子どもたちの成長を支える方針を打ち出しました。

山形県立小国高等学校においては、こうした方針に沿う形で、本町の「保小中高一貫教育」や東北で初めて指定された「学校運営協議会」を活用しながら、地域住民、地元産業界及び大学等と協働しながら学ぶ「白い森学習」が展開されてきました。本事業では、白い森学習をより効果的・実践的な学びに発展させるため「白い森未来探究学」としてカリキュラムを研究・構築するとともに、地域と高校との連携体制（コンソーシアム）の整備を進めてきました。

高校生が地域の住民や団体等とともに学ぶことは、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に大きな意義を持つものであり、自らの進路実現に資するものであると確信しております。町としてもこうした経験が地域づくりを支えていく人財の育成に欠かせないものと考えており、大きな期待を寄せているところであります。

結びに、これまでの本事業の取り組みにご指導・ご協力いただきました皆様に厚くお礼を申し上げあいさついたします。

ごあいさつ

小国高等学校 校長 米野和徳

本事業最終年度となる第3年次の報告書をお届けいたします。

本校は、1948年に創立された全日制普通科の小規模高等学校です。本校が所在する人口約7,000人の山形県小国町はマタギ文化が残る中山間地域にあります。近隣の公立高等学校との距離が遠いという地理的条件のため、創立以来、生徒は町内の中学校出身者が多く、町の複数の中核企業等に対して多数の人材を輩出してきました。

2001年から6年間にわたって文部科学省研究開発学校として連携型中高一貫教育を実践し、「国際・情報」を教育の柱として地域の子どもを地域が育てる教育や中高の連携及び地域学習を進めてまいりました。こういった実践研究を踏まえ、2007年度以降も町を挙げて小中高一貫教育（2018年度からは保育園も加えた保小中高一貫教育）として、「国際・情報」と「白い森学習」（地域学習とキャリア教育）を教育の柱として学びの一貫性を確保するとともに、異なる校種間や地域との交流を積極的に進める教育を推進してきました。

また、地域住民の学校教育への理解を深める取組を積極的に進め、2017年度に保護者や地域住民から構成される学校運営協議会を設置し、東北の高等学校としては初となるコミュニティー・スクールの指定を受けました。併せて、既にコミュニティー・スクールの指定を受けていた町内の小中学校等とともに合同学校運営協議会を設置し、「国際」「情報」及び「白い森学習」を教育の柱とした保小中高一貫教育とコミュニティー・スクールの取組を町と学校が一体となって、より効果的に進める体制を構築しました。

このような豊かな学びの土壌がある地域とともに、2019年度からの3年間、本校は、本事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」に取り組んでまいりました。本事業では、地域の様々な主体と協働することによりコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等を通じた学習カリキュラムを開発し、新しい価値を創造する人材育成を進めるとともに、この過程において、本校の取組が、人口減少が進む中山間地域等における全国の小規模高等学校の地域との連携・協働のモデルとなるよう努めてきたところです。

特に、本事業でじっくり3年間をかけて行う学びに発展・充実させた総合的な探究的の時間「白い森未来探究学」を軸とした学びは、生徒にとって成長実感のあるものとなり、評価指標においても、本校が育成を目指す資質・能力の伸びを確認する成果がありました。今後は、開発したカリキュラムの実践を進めるとともに、その一層の改善・充実を図ってまいります。なお、本事業の具体的な取組については、本報告書に詳しくまとめていますので、ご高覧いただければ幸いです。

最後になりますが、本校の3年間の取組にご指導、ご支援を賜りましたすべての関係者の皆様方に心から感謝申し上げ、冒頭のご挨拶とさせていただきます。

育てたい 小国高校 7つの力 ニ オグパワフ

教育目標

- 1 地元に着と誇りを持ち、
地元を分厚く支援できる
人材の育成
- 2 主体的な社会参加を通じて、
多様性を認め、協働できる
人材の育成
- 3 豊かな心と健全な体を持ち、
新たな価値を創造できる
人材の育成

求める人物像（白い森人）

卒業後に地域で就職
または将来地元で就業し、
地域づくりにとも積極的
主体的に関わる人材



学びの土壌

目次

I. 研究開発の概要・カリキュラム.....	6
II. 研究開発の内容.....	14
1. 「白い森未来探究学」および地域協働の主な活動報告.....	15
2. 全国小規模校サミットの取組.....	48
3. 国際・情報教育（保小中高一貫教育）.....	68
III. 資料.....	77
1. 「高校魅力化評価システム 2.0」診断結果チェックシート.....	78
2. 報道記事.....	85

Photo by Zen Watanabe



I. 研究開発の概要。

カリキュラム



Photo by Zen Watanabe

I. 研究開発の概要・カリキュラム

1 事業の実施期間

令和3年4月1日（契約締結日）～ 令和4年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 山形県立小国高等学校
学校長名 米野 和徳
類型 地域魅力化型

3 研究開発名 白い森人創生プロジェクト

4 研究開発概要

山形県立小国高等学校（以下「本校」という。）では、生徒が他地域との比較や地域の人々との関わり等を通じて自身の生活の場である小国町を理解するとともに、それらの活動を通じて見えてきた地域課題について解決策を検討して自ら実践する研究・学習活動（小国町での地域学習とキャリア教育とを複合させた研究・学習活動。以下「白い森学習」という。）を展開している。

本事業においては、小国町指定の保小中高一貫教育を一層活用し、本校における白い森学習を地域人材としての個性の確立を図る段階と位置づけるとともに、コンソーシアムである山形県立小国高等学校学校運営協議会（以下「学校運営協議会」という。）を活用し、地域の様々な主体と協働することにより、より効果的・実践的な取組に発展させる。白い森学習の一環として、地域の諸課題を研究テーマとして設定し、大学の研究者等や地域関係者からの協力・指導を得ながら研究を行う探究型の学習活動である「地域文化学」を総合的な学習（探究）の時間の中で実施している。現在1年次を対象として行われている地域文化学の名称を「白い森未来探究学」とし、これを3年間かけて2、3年次まで拡充するとともに、地元産業界等と提携してより地域に密着した実践的な研究活動に発展させる。また、教育課程外の取組においても、実践的な白い森未来探究学で得られた知見や経験を生徒の出発点とし、地元産業界等の協力の下、農林業に係る営利活動体験、企業発信型の長期間にわたるインターンシップへの参加など、地域に密着した実践的なキャリア教育を行う。さらに、これらの過程において、大学との連携、ICTを活用した遠隔教育の導入、アントレプレナーシップ教育等により積極的に外部人材等を活用することで、生徒に地域内だけにとどまらない幅広い分野で新しい価値を提供できるカリキュラムを研究開発する。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
岡崎 エミ	東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科准教授	学識経験者
牛木 力	東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科専任講師	学識経験者
阿部 剛志	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社上席主任研究員	学識経験者

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
小国町	仁科 洋一（町長）
小国町教育委員会	遠藤 啓司（教育長）
山形県立小国高等学校	米野 和徳（学校長）
山形県教育委員会	菅間 裕晃（教育長）
山形県立小国高等学校同窓会	齋藤 弥輔（会長）
山形県立小国高等学校後援会	伊藤 明芳（会長）
山形県立小国高校学校PTA	佐野 裕之（会長）
小国町認定農業者協議会	大谷 健人（会長）
小国町森林組合	渡部 俊広（代表理事組合長）
クアーズテック株式会社小国事業所	岡島 博之（所長）
日本重化学工業株式会社山形事業所	相馬 秀之（所長）
小国町商工会	伊藤 通芳（会長）
学識経験者	安藤 耕己（山形大学地域教育文化学部教授）

8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	岡崎 エミ	東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科准教授	謝金対応
地域協働学習支援員	渋谷 洋司	小国町統括的な地域学校協働活動推進員	小国町会計年度任用職員

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会					1回							1回
魅力化コア会議 (担当者会議)			2回	1回	1回	1回	1回	1回	1回		1回	
魅力化戦略会議 (管理職会議)				1回		1回			1回			1回
コンソーシアム会議		1回						1回				1回
白い森未来探究学 支援				1回 トークフォー クス			1回 小国巡り 事前研修		1回 1, 3年発 表会	1回 2年マイ 発表会	1回 浸る講座 事前研修	
第4回全国高等学校小規 模校サミット支援							1回 ファシリテ ーション研 修	2回 OBOG及 び地域に よるグ レ コ支援				
キャリア教育支援				1回 インターシ ップ受入							1回 若手社会 人との懇 談会	
小国☆地域みらい 塾の開催			1回	2回	1回			1回				
季の風(とき か)人材育成プロ ジェクトの開催						1回	3回	3回	1回			
魅力化評価アン ケート解説会									1回			1回

(2) 実績の説明

①運営指導委員会

今年度は、2回開催しており、1回目はテーマ別分科会を開催した。①教育課程、カリキュラム構築、②先進事例を参考とした探究授業の進め方、③魅力化評価アンケートを活用した教育効果測定及びその活用の3テーマに分かれ意見交換、委員から助言をいただいた。2回目は、3年間の当該事業のまとめ、今後の課題等について各委員からご指導いただいた。

②魅力化コア会議及び戦略会議

高校の地域との協働事業担当者、町教育委員会高校魅力化推進室(コーディネーター含む)、町総合政策課担当者の三者がほぼ毎月、白い森未来探究学等の授業内容や地域側の講師選定、生徒の交通手段など事務的な打合せを行っている。必要に応じて管理職等の会議である戦略会議を開催し判断、指導を受けた。

③コンソーシアム会議

当コンソーシアムは、小国高校の学校運営協議会と同じ体制であるため同日の会議開催となっている。地域との協働による高等学校教育改革推進事業の内容・進捗状況を説明し、理解をいただきながら事業展開してきた。

しかし、コンソーシアムが高校生の取り組みに積極的に協力する、という本来の機能が一部しか発揮できなかったため、今後更なる体制の見直しや役割分担の明確化を進めていく必要がある。

④白い森未来探究学、全国高等学校小規模校サミット、キャリア教育への支援の実施

小国高校がカリキュラム構築している「白い森未来探究学」や生徒が主体的に実施しているサミットについて、地域の多様な人材や高校のOBOGに、トークフォークダンスや発表会の講評、マイプロジェクトの支援、グラフィックレコーディングの実施による協力を行ってきた。

また、キャリア教育においては、町内の企業や事業所、テレワーク実践者、マルチワーク実践者などに協力いただき、高校生のインターンシップを受け入れたほか、働くことを具体的にイメージできるよう若手社会人との懇談会「ハタラトーク！」を開催した。

⑤小国☆地域みらい塾、季の風（ときのか）人材育成プロジェクトの開催

両事業ともに、町の総合政策課において企画・実施している。高校生を含めた若者を対象とした連続講座で若者のアイデア創出の場となっている。みらい塾には高校生3名、季の風プロジェクトには高校生2名が参加した。特にみらい塾においては、その後の実践において10/10の補助金を予算措置しており、学んだことをすぐに実践できる環境をえている。

⑥魅力化評価アンケート解説会の開催

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社と（一財）地域・教育魅力化プラットフォームが共同で開発している高校の魅力化評価アンケートの読み取り方、活かし方について、運営指導委員の一人でもある阿部委員から解説いただき、生徒が成長した力の確認、高校生の学びに地域がどう関わっているかを読み取った。

さらに、小国高校のスクールミッションやスクールポリシーの策定、カリキュラム構築の方向性の確認に活かすとともに、今後の課題の抽出を行った。

⑦その他

小国高校では、令和5年度から部活動が廃止になることから、今年度新たにNPO法人おぐにスポーツクラブYuiと連携し試行的な取り組みを行った。具体的には当該スポーツクラブに高校生が加入し、スポーツクラブのメニューの中でバスケットボールを練習している。講師はスポーツクラブ職員（地域の講師）である。来年度以降、バスケットボール以外の種目についても検討を進めていく。

また、「山形県立小国高等学校を支援する会」においても、県外からの入学者募集や特色ある教育活動への支援を実施しており、今後も高校のニーズを見極めながら協力していく。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
科目「国語」における地域での探究学習									1回			
科目「家庭」における地域・校内での探究学習				1回				2回		2回	2回	
科目「体育」における地域・校内での探究学習			1回							3回	1回	
科目「保健」における探究学習								1回	1回	1回	1回	
科目「英語」における地域での探究学習							1回		1回			
総合的な探究の時間における探究学習	1回	4回	5回	6回	2回	4回	4回	2回	5回	3回	4回	
「LHR」における探究学習	1回		2回	3回	2回	2回	3回	2回			4回	3回
課外活動における地域との協働活動	1回	1回	5回	5回	6回	8回	6回	7回	2回		2回	

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

1年時完結であった地域課題解決型探究学習を「白い森未来探究学」という総称で3年間取り組む学習に改編し今年度で3年目の完成年度である。1学年は「地域文化学」とし、興味・関心・意欲を高めることを目的に、地域内外の指導者による講義やフィールドワークをふんだんに盛り込み、研究の方向性を見出す学習活動を行った。2学年は「地域実践学」とし、個々が設定した課題に基づき、具体的な調査、

研究活動を行った。完成年度の3学年は「地域構想学」として2年時にまとめた成果から新たな提案を行い、3年間の総まとめとした。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、特別活動（LHR、学校行事等）の中で実施。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ教科等横断的な学習とする取組みについて地域で活躍する方々の協力や地域内施設の活用による能動的な授業を積極的に行っている。ジェンダーに係る多様性、人権の問題など学際的な内容を国語科、環境問題、食や住居に関する内容を家庭科、地域の方々の指導による体験的スポーツ活動を通して地域の魅力発見につなげる授業などや安全活動などを保健体育科で実施した。

④類型毎の趣旨に応じた取組について

地域課題の発見・解決を通し新しい価値観を創造することを基本理念に地域との協働による多様な活動を精力的に企画・実施した（総合的な探究の時間、授業、特別活動等）。座学だけでなく地域の外部講師との対話、協働活動や生徒が自ら校外に出ていくフィールドワークなどの活動を多く取り入れることで、自己と他者、地域との関わりを体験的に学ばせることを重視しながら、毎回振り返りの時間を設定し、学習内容のより深い定着を図った。

⑤成果の普及方法・実績について

新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、地域の教育的イベントにおける発表や報告は行えなかったが、町報や新聞折込みによる町民への周知、地元ショッピングモールでの成果物の展示等を行った。また、町や探究活動の関係者、保護者などに対して校内での報告会を行い、オンラインで、他校生徒、教委育関係者への報告会も行った。

1 1 目標の進捗状況，成果，評価

(1) 進捗状況

高校魅力化評価アンケートの指標と、町内中学校から小国高校への進学率を参考にして進捗状況等を確認した。アンケートによれば、小国高校が定める生徒の育てたい力「オグパワ7」（見つける力、行動する力、絶えず続ける力、認める力、伝える力、つながる力、考える力）は、いずれの指標も入学時より高位となっており明示的カリキュラムによる成果が現れていると判断できる。また、学びの土壌（非明示的カリキュラム）、いわゆる地域の状況についても他地域よりも多くの指標で高位となっている。当事業で成果目標とした項目に相当する指標は、大きな伸びは確認できなかった。

また、町内中学校から小国高校への進学率については、20~30代を前後しているが、当事業で構築した白い森未来探究学が大きな魅力となっていること、さらに今年度から受け入れた「地域留学生」及び令和4年度から受け入れる県外からの入学者の影響により進学率が高まる可能性が出てきた。

(2) 成果

①当事業で構築した白い森未来探究学を軸とした成長実感のあるカリキュラムを開発できた。

②様々な研修や多くの地域の方、専門家に授業に参画・伴走いただいたことにより、「挑め、ともに！」が小国高校のスタイルとして浸透した。

③地域住民が高校の存在意義を再確認するとともに、関係人口や環流人口（OBOG）として小国高校に関わり続けていく人が増えた。

<添付資料>目標設定シート

1 2 次年度以降の課題及び改善点

- (1) 生徒の成長実感を意識したカリキュラムの年次改良とグランドデザインの整理
- (2) 外部有識者とのつながりの継続（学び続ける教員・地域を継続する意識や価値を理解し、計画的に研修等を創出できる資金の確保）
- (3) 高校魅力化コーディネーターの十分な活用と高校・町の求める人材の継続確保
- (4) コンソーシアムのあり方（生徒の興味・関心に応えるための機関としての実働性の強化）

【担当者】

担当課	教育振興課	T E L	0238-62-2141
氏 名	高橋 俊典	F A X	0238-62-2143
職 名	高校魅力化推進室長	e-mail	toshinori- t@town.oguni.yamagata.jp

Ⅲ. 研究開発の内容



Photo by Zen Watanabe

Ⅱ. 研究開発の内容

1. 「白い森未来探究学」および地域協働の主な活動報告

「白い森未来探究学」3学年地域構想学 オープニング講座

- 1 期 日 : 令和3年4月20日(火)
- 2 時 間 : 5~6校時 13時25分~15時10分
- 3 場 所 : 小国高校
- 4 参 加 者 : 小国高校教職員4名、CN3名、小国高校生3年生20名 合計27名
- 5 内 容 :

自分なりに疑問を『見つける力』立てた問いについて、なぜ? どういうこと? と問いを更に深掘り、『考える力』を付ける。生徒の興味・関心に基づく事柄について、問いを立ててみること。

生徒の問い:

なぜ昼休みに体育館が使えないのか
なぜ学校で携帯を使ってはいけないのか
スタンディングスタディを取り入れないのはなぜか
なぜ授業中の飲食はダメなのか
なぜ進路によって選べない科目(教科)があるのか
男女の制服はなぜ選べないのか など

6 状況写真:



「白い森未来探究学」1学年地域文化学
オープニング講座

- 1 期 日 : 令和3年4月22日(木)
- 2 時 間 : 5,6校時 13時25分～15時10分
- 3 場 所 : 長者原公民館、Studio こぐま
- 4 参 加 者 : 小国高校教職員4名、CN3名、1年生16名、地域留学生4名
合計27名
講 師 : 民宿越後屋 本間義人氏
Studio こぐま代表 本間かりん氏

5 内 容 :

マタギ文化に触れることで、自然との共存(生態系の循環)についての理解を深める。その循環のシステムが自分たちの生活している小国町にあることに改めて気づくことで、資源を守りつないでいくことの重要性を意識し、今後の活動の軸とする。

「小国町のマタギ文化～熊は神様からの授かり物～」マタギのルールを教わる中で、自然との共存(生態系の循環)について理解し、今後の活動に入れるようにする。

生徒の感想:

『本間義人さんから、マタギについての愛情深さが伝わりました。』

『初めて熊の皮を見て、意外と熊はかわいいし熊の毛もしっかりしていることが分かった。』

『今回の学習で思ったことは好きなことは続けることが大切だと思いました。』

『熊肉など食べるときに、これからは感謝しながらおいしく食べたいなと思いました。』

『本間かりんさんからは、好きなことには全力で取り組むと言っていたので、自分の好きなことに全力で取り組んでいきたいなと思いました。』

『マタギを通じて小玉川の歴史や山のルールなど新しい知識を身につけることができ良かった』

『自然に囲まれながら絵を描くのは良いなと思いました』

『マタギという名前しか知らなかったけど、マタギだけの言語があることや、実際に目の前に熊がいたときのリアルな話などを聞けてとても面白かった』

7 状況写真 :



全校ファシリテーション研修

- 1 期 日 : 令和3年4月26日(月)
- 2 時 間 : 4-6校時 12:30~16:00
- 3 場 所 : 小国高校体育館
- 4 参加者 : 小国高校教職員9名、CN3名、全校生65名 合計77名
講 師 : 東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科 准教授 岡崎 エミ 氏
(副手: 牧野 秀紀さん、春山 瑞季さん)

5 内 容 :

授業や講座などを一方的に受けるのではなく、生徒が主体的に参加して体験し、参加者全員で学び合ったり、何かを創り上げたり、問題や課題を解決したりするワークショップを本校では大事にしている。そのワークショップに参加することにより、効果的な意見交換や合意形成、交流ができるよう、ファシリテーションの意義や手法を身につける。(1年生にとっては初めてワークショップを経験する場であり、2・3年生及び職員にとっては改めてワークショップ・ファシリテーション、コミュニケーションの取り方について学ぶ場)

7 状況写真:



「白い森未来探究学」2 学年地域実践学
オープニング講座

- 1 期 日 : 令和3年4月27日(火)
- 2 時 間 : 5,6校時 13時25分~15時10分
- 3 場 所 : 小国高校
- 4 参加者 : 小国高校教職員6名、CN 3名、小国高校生29名
合計38名

5 内 容 :

自分なりに疑問を『見つける力』

立てた問いについて、なぜ? どういうこと? と問いを更に深掘り、『考える力』を養うこと

生徒の興味・関心に基づく事柄について、問いを立ててみること。

生徒から出た問い:

- 『人ってなんで自殺してしまうんだろうか?』
- 『なぜモテないのか?』 『なんで小国は田舎なのか?』
- 『コロナ下なのに外に出る人が多いのはなぜか?』
- 『なぜ日本人は自己肯定感が低いのか?』
- 『なんで空は青いのか?』
- 『生きるとは何か?』
- 『なぜ人には考える力があるのか?』
- 『なぜ高校生は茶髪にしてはいけないのか?』
- 『どうして権利を教えず、義務ばかり教えるのか?』
- 『生き方になぜ良い、悪いがあるのか?』
- 『なぜ公務員は副業がダメなのか?』
- 『経済成長と環境配慮は両立できるのか?』
- 『なんで地球に空気があるのか?』
- 『なんで差別があるのか?』 など



7 状況写真:



「白い森未来探究学」 2 学年地域実践学 マイプロ合宿

- 1 期 日 : 令和 3 年 5 月 14, 15 日
- 2 時 間 : 9 時 00 分～16 時 00 分
- 3 場 所 : 小国高校
- 4 参 加 者 : 小国高校教職員 6 名、CN 3 名、小国高校生 29 名
東北芸術工科大学学生 12 名 合計 50 名

5 内 容 :

自分の興味あることを見つける力、なぜ興味あるかについて考える力を身につける。
マイプロのたたき台を作成する。

生徒の感想 :

「自分は何をしたいのか気づくことが少し出来た」

「自分のなりたい未来を想像して自分なりに素直に表現できたところが嬉しかったなあと感じた」

「大学生がとにかく積極的で、話しかけてくださったりして、嬉しい気持ちが大いいです」

6 状況写真 :



「白い森未来探究学」1 学年地域文化学
コミュニケーション基礎研修

- 1 期 日 : 令和3年5月17日(月)
- 2 時 間 : 4~6校時 12:30~15:30
- 3 場 所 : 小国高校 被服室
- 4 参加者 : 小国高校教職員4名、小国高校生16名、
東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科学生5名、合計25名
- 5 内 容 : 4グループ(4人1グループ)に分かれて、「LOVEのルール」や「Yes, and」、「4つの聞く」などのコミュニケーションを円滑にするために必要なスキルについて、講義だけでなく演習を交えて体験的に学ぶ。

生徒の声:

「コミュニケーションはただ明るくふるまうだけではなく、4つの聞くやYes, andを使って、相手と考えや感情を分かち合うことが大切だと学びました」

「質問をして、答えが返ってきて、それにまた質問するというのが難しかったです。自分なりに考えて分かりやすいように質問することができたのでよかったです」

「私はあまりコミュニケーションをとることが苦手ではなく、どちらかといえば自分からとる方だけど、コミュニケーションを上手にとるには、相手の話を聞いてあげることが大切だと知った。もっとコミュ力を高めていきたい。また、自分のことを知ってもらうことも大切だと知った。大学生の『自分は自分だから』という言葉がめっちゃ響いたので大切にしていきたい」

6 状況写真 :



「白い森未来探究学」1 学年地域文化学
リフレクション研修

- 1 期 日 : 令和3年5月24日
- 2 時 間 : 4~6校時 13時25分~15時20分
- 3 場 所 : 小国高校
- 4 参 加 者 : 小国高校教職員6名、CN3名、小国高校生16名 合計25名
- 5 内 容 :

自分は何に興味を持っているのか見つける力を養う。マインドマップの書き方を学ぶ。

生徒の感想：

「1つのテーマから想像を膨らまして書いていくのがすごく楽しかった。共有をした中で世代が違って、それぞれの個性があって面白かったし、興味を持つことができました」

「自分の好きなものを他の人に言えるのがとても嬉しかったです」

「難しいと思ったけど、自分の考えていることが分かりやすくまとめられたので楽しかったし、自分のことを知れたからよかった」

6 状況写真：



白い森人研修② ～伴走者研修～

- 1 期 日 : 令和3年5月11日(火)
- 2 時 間 : 14時55分～16時55分
- 3 場 所 : 小国高校 会議室
- 4 参 加 者 : 小国高校教職員12名、CN3名、合計15名
- 5 内 容 :

東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科准教授の岡崎 エミ氏より、伴走者のあり方・哲学(Yes, and、オープンマインド、声なき声を聞く、相手は自分の鏡、誰の意見も大切な意見、民主主義の基本)を指導いただいた。参加者全員で「高校教員のための探究学習入門—問いからはじめる7つのステップ (佐藤 浩章著)」をアクティブラーディングし、探究学習の進め方を学んだ。

6 状況写真



「白い森未来探究学」 1 学年地域文化学
地域に浸る講座(1)

- 1 期 日 : 令和3年6月3日
- 2 時 間 : 13時25分～15時20分
- 3 場 所 : 小国高校
- 4 参 加 者 : 小国高校教職員4名、CN2名、小国高校生16名 合計22名
- 5 内 容 :

生徒が自分の「やりたい」を見つけるために、自分のやりたいを極めて楽しんでいるキラキラした地域の大人たちにたくさん出会い、ふれあい、対話する中で気づき、そこから考える。

内容A：【川崎小動物病院】川崎 恵 さん

内容B：【旬彩工房】山口 ひとみ さん

内容C：【東部開発】大嶋愛 さん

生徒の声

「自分で仕事を作れることを学んだ」

「自分が生まれた場所ではないところに行って暮らすこともいいと思った」

「私も将来、自分で自分の職業を創ってみたいと思っているので、今回の山口ひとみさんの経験を参考にしたいと思った」

6 状況写真：



「白い森未来探究学」3学年地域構想学《第1回学問・産業探究班》

- 1 期 日 : 令和3年6月7日(月)
- 2 時 間 : 14:25~15:15(1時間)
- 3 場 所 : 本校図書館
- 4 参加者 : 小国高校生徒4名、教員1名、CN 1名、
- 5 内 容 :

目的:

進学、就職共通: 人生に豊かさをもたらす教養を身につける意欲を持つようになる

進学: 大学での友達捜しの種にする、志望動機を書く準備をする

就職: 自分の職務が社会にどう関わっているのか理解できるようになる

内容:

古典を読むことで教養を深めることが出来ることを理解する

『学問』とは何か?という問いについて思考してみる。

- ・アイスブレイク・小林秀雄の人物紹介(10分)
- ・『学問の常識を忘れてはいないか?』ラジオ視聴(10分)
- ・『学問の常識』とは何か?(10分)
- ・図書館で『本』を一冊選ぶ。

『学問の常識』を感じさせる本を選ぶ。(小説でもOK)(10分)

- ・発表・次回の説明(10分) 選んだ本の紹介と、どこに学問を感じたか発表

課題図書: 『学生との対話』の一部—『自分』とは何か? 紹介図書: 本居宣長『古事記伝』

生徒の声:

「抽象的な問いについて向き合おうと思えた」

「正直乗り気じゃなかったけど、話を聞いてみるとわりと面白かった」

「古典を読んでみようと思えた」

6 状況写真



「白い森未来探究学」1学年地域文化学
地域に浸る講座(2)

- 1 期 日 : 令和3年7月7日(水)
2 時 間 : 13時25分~15時50分
3 場 所 : 小国高校
4 参加者 : 小国高校教職員4名、教育委員会1名、CN1名、小国高校生16名
合計22名
5 内 容

生徒が自分の「やりたい」を見つけるために、自分のやりたいを極めて楽しんでいるキラキラした地域の大人たちにたくさん出会い、ふれあい、対話する中で気づき、そこから考える。

A : 【kegoya】熊谷(柳沢) 茜さん

B : 【一般社団法人 YOKAMOSU ヨカモス】井上 昌樹さん

C : 【農業組合法人 小国きんたけ工房】 渡邊 拓磨さん

生徒の声 :

「茜さんのかごから始まった人との繋がりがとてもすごいなと思いました。」

「海外に行っかごを見てきた話がとても面白かったです」

「お酒を作るのは大変だとわかりました。」

「井上さんの人生についても聞くことができよかったです。」

「木という植物だけでたくさんの個性があふれる椎茸ができるんだなと思いました。」

「拓磨さんの椎茸に対する豆知識がすごく貴重な体験でした」

6 状況写真



「白い森未来探究学」 3 学年地域構想学 《第 2 回学問・産業探究班》

- 1 期 日 : 令和 3 年 7 月 12 日 (月)
- 2 時 間 : 13 : 25 ~ 15 : 15 (2 時間)
- 3 場 所 : 本校図書館
- 4 参加者 : 小国高校生徒 4 名、教員 1 名、CN 1 名
- 5 内 容 : 目の前の人間に接することで、教養を深められることを理解する

『自分』とは何か?について考えることを通して、

- ・『学生との対話』の一節について、いくつかの問いを考える
- ・踏まえて、『自分』を見つける方法は何? (前半終わり)
- ・体を動かせる活動を通じて、小林秀雄流の自分の見つけ方を経験。

紹介図書: ベルクソン『時間と自由』

生徒の声:

「偉人たちが私たちと同じような悩みに向き合い、答えを出そうとしていたことに感動した」

「ベルクソン難しすぎる」

「日本語力、大事だなんて思いました」

6 状況写真



白い森人研修③

山形県立小国高等学校グランドデザインづくりワークショップ

- 1 期 日 : 令和3年7月26日(月)、27日(火)
- 2 時 間 : 13時30分～16時30分
- 3 場 所 : 小国高校 会議室
- 4 参加者 : 小国高校教職員9名、教育委員会1名、CN3名 合計13名
- 5 内 容 :

地域協働事業の最終年度を迎えるにあたり、研究の結果として、教育の前提確認や本校の特徴的な学びを確認して明言化し、そこから本校の目標や目指す生徒像を再検討しながらグランドデザインを完成させ、令和4年度に向けたカリキュラムを完成させる。

【過去5年間の振り返り】

(1) 現行の「育成したい人物像」と「教育目標(育成したい人物像詳細)」「求める資質能力(オグパワ7)」と「今現在行っている主な取り組み」を俯瞰してみて、

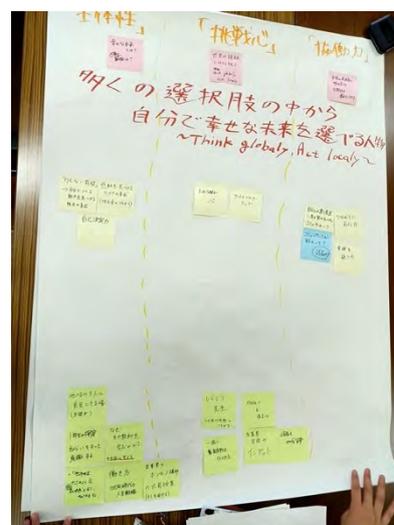
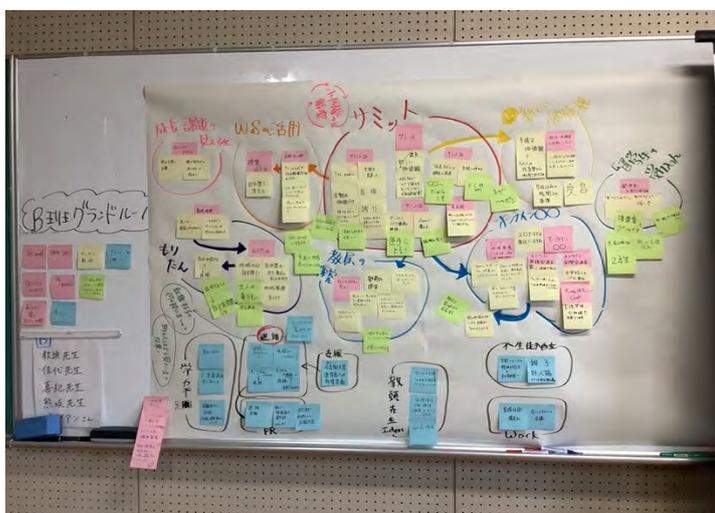
- ① 「人物像」と「資質能力」と「取り組み」が、一貫しているか?
- ② 違和感がある、改善した方が良い部分はないか?

を考察。

(2) 今までの取り組みで、「生徒の成長が見られた」「うまくいった取り組み」は何か、付箋に書き出す。

(3) 今までの取り組みでは、「生徒の成長として足りていない」と感じるものは何か書き出す。

6 実施写真:



「白い森未来探究学」3学年地域構想学《第3回学問・産業探究班》

- 1 期 日 : 令和3年8月30日(月)
- 2 時 間 : 13:25~15:15(2時間)
- 3 場 所 : 本校図書館
- 4 参加者 : 小国高校生徒4名、教員1名、CN1名
- 5 内 容 : 自分の頭で考えることで教養を深められることを理解する
『正義』とは何か?について考える。

マイケル・サンデル風の授業展開(前半)

街の中を歩いて自分の『正義』に合わないものを探そう(後半)

紹介図書: これからの『正義』の話をしよう(マイケル・サンデル著)

生徒の声:

「正義の反対は、別の正義って当たっているなど納得しました」

「町の中の『不正義』を探すのは、楽しかったです」

「漠然とした価値観に問いを立てて、考えてみるのは面白いなと思いました。」

6 状況写真

これからの
「正義」の
話をしよう
いまを Justice
What's the Right Thing to Do?
生き延びる
ための哲学
Michael J. Sandel 鬼澤 忍=訳
マイケル・サンデル 早川書房

「白い森未来探究学」1 学年地域文化学

地域に浸る講座(3) 飯豊町巡り

- 1 期 日 : 令和3年9月2日(木)
- 2 時 間 : 12時25分~16時35分
- 3 場 所 : 飯豊町
- 4 参 加 者 : 小国高校教職員4名、CN3名、小国高校生14名 合計21名
- 5 内 容 :

生徒が自分の「やりたい」を見つけるために、自分のやりたいを極めている大人たちにたくさん出会い、ふれあい、対話する中で気づきを持ち、さらに、地域を直に感じる楽しさを味わう。今回は、生徒個々に興味のあるコース(分野)を選択し、隣町である飯豊町をフィールドワークすることで、身近にある様々な取り組み(特に、小国町には無い取り組みや先進的な取り組み等)について知見を深める。

講師:

【飯豊町役場企画課】高橋弘之課長

【飯豊町役場企画課総合政策室】川村俊貴主事、飯豊町地域おこし協力隊 家財 綾 氏

【一般社団法人ひらすび牧場】金田 氏

【HOTEL SLOW VILLAGE】堀江守弘 氏

【山形県ものづくりマイスター】味田勝徳 氏

【飯豊型エコハウス】飯豊町役場企画課 高橋弘之課長

【いいで天文台】手塚秀幸 氏、飯豊町役場社会教育課 千葉真生子主事

【飯豊町観光地周遊】飯豊町役場商工観光課観光交流室 二瓶 綾主事、飯豊町地域おこし協力隊 加藤絵美 氏

6. 状況写真:



第1回アントレプレナーシップ教育講座
～考え方のフレームワークを身につけよう～

- 1 期 日 : 令和3年9月8日(水)
- 2 時 間 : 16:00~18:00(2時間)
- 3 場 所 : 本校会議室
- 4 参加者 : 小国高校生徒4名、学校職員1名 教育委員会2名、CN2名
- 5 内 容 :

さまざまな考え方を身につけ、自分のこと、社会のことをより広い視野・深い視点で考えられるようになること。

テーマ: 考え方のフレームワークを身につけよう

「文化祭の出し物を決めよう」という身近なお題で生徒同士が話し合った。フレームワークを使った時と使わなかった時の違いを比べた。

生徒の声:

「自分の頭の中を整理できた」

「数値化することで説得力のあるコミュニケーションがとれそう」

「早速明日から使えそう」

- 6 状況写真:



第2回アントレプレナーシップ教育講座

～自分の未来を洞察しよう～

- 1 期 日 : 令和3年9月14日(火)
- 2 時 間 : 16:00～18:00(2時間)
- 3 場 所 : 本校会議室
- 4 参加者 : 小国高校生徒3名、学校職員1名 教育委員会2名、CN2名
- 5 内 容 :

さまざまな考え方を身につけ、自分のこと、社会のことをより広い視野・深い視点で考えられるようになること。

テーマ：自分の未来を洞察しよう

未来を予測ではなく洞察した。「自分は将来何がしたいか、社会はどうなっているか」の両方の視点を持って生徒同士が話し合った。「AIロボット・少子高齢化」のテーマで30年後の小国町と自分がどうなるかを考えた。

生徒の声：

「自分の夢や町の未来について大人と真剣に話し合えたことは貴重な経験になった」

「未来は誰にも予測できないが、若い世代が話し合うことで洞察できるとわかった」

「ありそうな未来より、ありたい未来を考えることが楽しかった」

6. 状況写真



第3回アントレプレナーシップ教育講座
～未来を変える一步を踏み出す～

- 1 期 日 : 令和3年9月17日(金)
- 2 時 間 : 16:00~18:00(2時間)
- 3 場 所 : 本校会議室
- 4 参加者 : 小国高校生徒4名、学校職員1名 教育委員会2名、CN2名
- 5 内 容 :

さまざまな考え方を身につけ、自分のこと、社会のことをより広い視野・深い視点で考えられるようになること。

テーマ: 未来を変える一步を踏み出す

課題解決に取り組むための3つの型(問題解決型・危機対処型・理想実現型)を導入し、自分の解決したい課題、実現したい夢について話し合った。

生徒の声:

「自分は考えていることを口にすることが苦手で、いつも直感的に話してしまう。でも3つの型を使うことで頭の整理ができた」

「今回の内容を公務員試験に役立てたい」

「スティーブ・ジョブズの演説(点線思考)の動画を見てみようと思った」

6. 状況写真



第4回アントレプレナーシップ教育講座

～一を聞いて十を知るには～

- 1 期 日 : 令和3年9月21日(火)
- 2 時 間 : 16:00~18:00(2時間)
- 3 場 所 : 本校会議室
- 4 参加者 : 小国高校生徒4名、学校職員1名 教育委員会2名、CN2名
- 5 内 容 :

さまざまな考え方を身につけ、自分のこと、社会のことをより広い視野・深い視点で考えられるようになること。

テーマ：一を聞いて十を知るには

織田信長の楽市楽座を例に、1つの知識をただの単語としてではなく「つまりどういうことか」抽象化して考えた。そのうえで「何でそれが起きたか」「何に活用できるか」のを話し合い、小国町の未来についても考えた。

生徒の声：

「織田信長みたいな歴史の偉人が小国町にいたらどうなるか考えてみたい」

「深く学ぶためのコツを学べた」

「どうしたら小国町に若者を呼び込めるか、もっと考えてみたい」

6. 状況写真：



「白い森未来探究学」3 学年地域構想学《第 4 回学問・産業探究班》

- 1 期 日 : 令和 3 年 9 月 24 日 (金)
- 2 時 間 : 13 : 25~15 : 15 (2 時間)
- 3 場 所 : 本校図書館
- 4 参加者 : 小国高校生徒 4 名、教員 1 名、CN 1 名
- 5 内 容 : 9 月 : 目の前の現実から全ての学問、教養は始まることを理解する
『存在』とは何か?について考える。

戦前ドイツのホロコースト (『夜と霧』などの書物) に関するインプットを経て
強烈な実体験から自分の『人生哲学』が表れてくることを学ぶ。

紹介図書 : 夜と霧

紹介映画 : ライフイズビューティフル

課題として、1 つの映画もしくは本を見てくる。その上で自分なりの問いを立ててく
る。

生徒の声 :

「自分の人生がいかにか恵まれているのか理解することが出来た」

「悲惨の環境の中でも、人間性を失わない強さに感動した」

「過去は誰にも侵されることのない、権利であるという言葉に感銘を受けた」

6 状況写真



第5回アントレプレナーシップ教育講座
～やる気を継続するために～

- 1 期 日 : 令和3年10月1日(水)
- 2 時 間 : 16:00~18:00(2時間)
- 3 場 所 : 本校会議室
- 4 参加者 : 小国高校生徒4名、学校職員1名、CN1名
- 5 内 容 :

さまざまな考え方を身につけ、自分のこと、社会のことをより広い視野・深い視点で考えられるようになること。

テーマ：やる気を継続するために

モチベーションに左右されず、嫌なことでもやり方や考え方を改めて「楽しもうシンキング」を学んだ。生徒が好きなゲームをテーマに、どんなゲームがクソゲー・神ゲーなのかを一緒に考えた。

生徒の声：

「全5回参加できたことで楽しむ力が身についたように思う」

「どの回もとても楽しかった」

「勉強も仕事も楽しむことが大切だとわかった」

6. 状況写真



「白い森未来探究学」1学年地域文化学
地域に浸る講座(4)小国町探検

- 1 期 日 : 令和3年10月14日(木)
- 2 時 間 : 1~5校時 8:50~14:10
- 3 場 所 : 小国町
- 4 参加者 : 小国高校生徒16名、学校職員4名、教育委員会2名、CN3名
- 5 内 容 :

主体的かつ探究的な活動を通して、地域に浸り、地域を直に感じることの楽しさ、自分たちの興味関心を突き詰めていく楽しさを味わう。また、情報の収集の仕方や整理・分析など、仲間と協働し、まとめて発表する能力を養う。

今回は、グループに分かれて、地域の協力者との対話からミニプロジェクトを立ち上げ、実践する活動を通して、来年度の探究活動の疑似体験をする。

地域の協力者:

東部地区: 中原凌さん(地域おこし協力隊)

中心部: 西村美祈さん(地域おこし協力隊)

南部地区: 横山尚美さん(民宿 奥川入)

北部地区: 齋藤恵美さん(小国町観光協会 主任)・岩井拓磨さん(地域おこし協力隊)

生徒の声:

「地域の方と一緒に昼食を作った。小国の自然を活用して自給自足で生活している大人が格好いいと思った」

「民宿の女将さんと人生の幸せについて議論した。どんな誘いにもまず『Yes』と言うことで人生はチャンスが広がると教わった」

「自分が卒園した保育園は廃校になったけど、今はそのスペースを活用して年配の方々が交流するサロンになっていた。今回そのサロンで年配の方々と交流できたことで自分の住んでいる地域の魅力を再発見できた」

「キリスト教独立学園の高校生と交流した。自分たちとは違う視点を持っていて、とても自立していた。刺激をもらえた」

6. 実施写真



1 学年家庭総合「藍染体験ワークショップ」

- 1 期 日 : 令和3年11月2日(火)
- 2 時 間 : 3~4時間目 (10:50~12:40)
- 3 場 所 : 小国高校調理室
- 4 参加者 : 1年1組 16名
- 5 内 容 :

染物を体験し、日本の伝統文化に触れる。自分たちが普段着ている衣類がどのように染色されているかについて知る。色褪せやシミによって使えなくなったものを藍染することで生まれ変わらせ、「捨てる」ではなく「大切に使う」ことの尊さを感じる。各自で色褪せやシミなどで着られなくなった服などを用意し、藍染を行う。

「染めるのに何時間も時間がかかる事、輪ゴムを使って模様を描く事ができる事に楞きました。染める作業も、待ってる時間も常にワクワクが止まらなくて凄く楽しかったです。これを機にお家でも使わなくなった、汚れてしまった服を染めてみたいと思いました。」「あいこさんが着ていたズボンが印象的です。もともとセーターだったものをズボンにする発想がすごいと思いました。毛をくるくるすると糸になるところも印象的でした」「羊の毛がふわふわで触り心地が良かったです」

6 状況写真



2 学年保健「2030SDGs カードゲーム演習講座」

- 1 期日 : 令和3年12月1日(水)
- 2 時間 : ①13:25~16:00(保健)、②12:30~13:20、16:20~17:30
- 3 場所 : 被服室
- 4 参加者 : 2年1組 28名
- 5 内容 :

理屈抜きに人を夢中にさせるボードゲームの魅力に触れ、それを様々な分野に応用して楽しみながら自ら進んで取り組む仕掛けをつくり出す(ゲーミフィケーション)効果について知る。

外部講師: 佐藤恒平氏 2030SDGs カードゲーム公認ファシリテーター、
生徒の声:

「SDGsについて楽しく学べた。今まで意識しなかった経済と環境と社会のバランスをイメージできた」

「楽しかった!で終わるのではなく、地球のためにも自分達の未来のためにももっと知ることが大切だなと思った」

「仲間・ペアとの協力など大切にすべきことが詰まった、とても頭を使って考えさせられるゲームで、とても楽しく学ぶことができました」

「世界の状況などルールが納得できて面白かった」

6. 状況写真



山形大学出張講座

もっとも身近なプラスチック

- 1 期 日 : 令和3年12月3日(金)
- 2 時 間 : 2-4 時間目 (9:50~12:40)
- 3 場 所 : 化学室
- 4 参加者 : 1年1組 16名(科学と人間生活)、2年1組 28名(化学基礎)、
3年1組4名(化学選択者)

講師: 山形大学 宮田剣氏准教授

5 内 容 :

最先端の化学技術に関する知見に触れることで、理科に対する視野を広め、現代社会が抱える問題について科学的な視点から考える。食品の包装(缶詰からペットボトルまで)の進化の歴史を学び、実験を交えながらプラスチックの最先端技術を学んだ。最後に「未来の生活に求められるプラスチックとは?」を共に考え、生徒からはさまざまな感想が寄せられた。

生徒の声:

「ペットボトルには、種類があって、先端のネジ部分に注目してみると、結晶化度が高いのと、低いのあるのだと、初めて知りました」「熱湯を注いだら凹むことに驚いた。未来は水素エネルギーが主な発電方法になっていると思う」「海などにプラスチックが流れることで問題があると最近騒がれてきているが実際にこの問題を解決する事はできるのか。こんなに問題があるのにプラスチックを無くせないのは何故か」

「キャップの部分の形によって耐熱性などが異なることを初めて知りました。未来では、ペットボトルのような利便性を備えていて、かつ環境に優しい容器が使われるのではないかと思います。例えば紙ペットボトルのようなものができるのではないかと思います」

6 状況写真:



小国中学校プレゼンテーション講座

- 1 期 日 : 令和3年12月16日(木)
- 2 時 間 : 5時間目(13:35~14:25)
- 3 場 所 : 小国中学校集会ホール
- 4 参加者 : 小国中学校3年生徒・担当教員、CN、2年生徒2名
- 5 内 容 :

高校生2名が講師となり、中学生向けに発表(マイプロジェクトについて、高校入学時からこれまでの成長過程について、プレゼンへの気持ちの変化とその要因、プレゼンをするときに気をつけていること、マイプロをやる前から現在への心境の変化)を行い、中学生からの質問に回答した。

中学生からの感想:

「すごくスムーズに進められていて、聞き手も参加するようなプレゼンテーションをされていてすごくいいと思いました。また、おもしろかったです」

「プレゼンテーションを作るときに、気をつけていることで大きく体を動かすとより伝わるとわかった」

「小国高校に入ろうと思ってるから連携入試のプレゼンのときに活かしていきたいです!」

「特に二人は、相手に伝えやすくするためにただ喋るだけじゃなく、問いかけや身振り手振りを使っていてすごいなと思った」

6 状況写真



1 学年家庭総合「自然エネルギーを未来のために」特別授業

- 1 期 日 令和4年1月21日(金)
- 2 時 間 3時間目 (10:50~11:40)
- 3 場 所 1年1組HR教室
- 4 参加者 1年1組16名
- 5 内 容

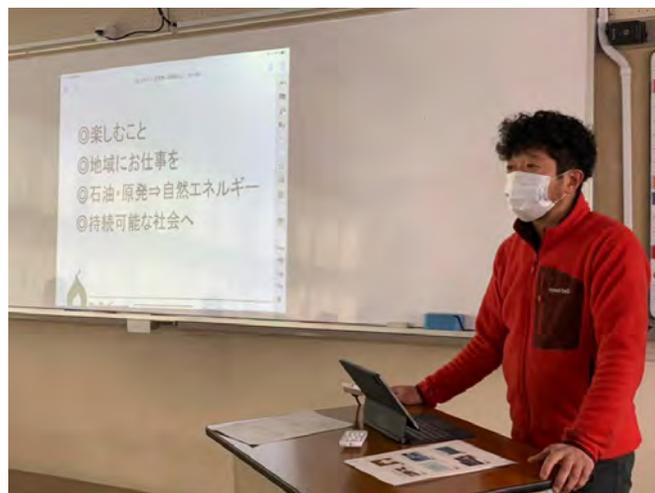
小国町には自然エネルギーの源となる資源がたくさんあることを知る。石油や原発に頼らず、自然エネルギーを利用することで、地球温暖化の防止、エネルギーの地産地消、地域雇用の創出につながることを知る。持続可能なまちづくりには、町内で経済が循環するしくみを構築することが大切であることを知る。

生徒の感想：

「ペレットストーブの良さを改めて知ることができた。高橋さんご夫婦は私もみんなも大好きです。町に仕事を増やして町の暮らしを楽しむことを学びました。小国町は誇りのある町です！」

「環境に優しいし、とてもあたたかそうなので使ってみたり実際に見てみたいなと思いました。また小国を誇りに思えました」

「1000トンのペレットを使うと1000トンの二酸化炭素が減ることが一番驚きました」



1 学年家庭総合「住まいと健康」特別授業

- 1 期 日 令和4年1月25日(火)
- 2 時 間 3～4時間目 (10:50～12:40)
- 3 場 所 1年1組HR教室
- 4 参加者 1年1組16名
- 5 内 容

日本の住宅は、省エネ基準が不十分なこと等により、他の先進国と比べて驚くほど寒くなっていること。寒い家は危険で健康を害する（一方、省エネで暖かい家は、健康を維持増進できる）こと。断熱性を高めれば、省エネで暖かい家にする事ができ、特に窓の断熱は手軽で効果的であること。新築でもリフォームでも断熱性能のモノサシを持つことと「省エネ建築の専門家」が大切であることを学んだ。

生徒の感想：

「将来自分も家を建てると思うので、今日教えてもらったことを忘れずに家を選びたいと思ったし、次の授業は実際に省エネ住宅の見学に行くのでしっかり見たり体験したりしたいです」

「将来自分の家を建てる際は2枚ガラスの窓にしたいと思いました」

「お風呂での事故（ヒートショック）が多いということがわかったので、おじいちゃんおばあちゃんに今日学んだことを教えたいと思いました」



「白い森未来探究学」2 学年地域実践学 成果発表会

- 1 期日 : 令和4年1月31日(月)
- 2 時間 : 10:30~13:20
- 3 場所 : 教室、図書館、音楽室、学習室
- 4 参加者 : 2年1組 26名

講評者 :

分科会A : 岡崎 エミ様 (東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科)、竹内 健太様 (道の駅白い森おぐに駅長)

分科会B : 阿部 英明様 (小国町副町長)、仁科 清春様 (小国町総務課長)

分科会C : 仁科 洋一様 (小国町長)、山口 ひとみ様 (旬彩工房)

分科会D : 井上 伊勢男様 (小国町教育振興課長)、斎藤 与枝子様 (シルバー人材センター)

分科会E : 遠藤 啓司様 (小国町教育長)、佐藤 友春様 (小国町総合政策課長)

5 内容 :

2年生がそれぞれ1年間取り組んだ「マイプロジェクト」の成果を発表。生徒は5分科会に分かれ、町内外の協力者10名に講評いただいた。発表会の様子はオンラインでも配信され、小規模校で交流のある高校の方々に視聴いただいた。

それぞれのテーマは、世界にアニメの魅力を発信する、イラストレーターになる、人が繋がるきっかけになる場所作り、映画を撮るなど、今年も十人十色。1年間の取り組みから得た経験や今後の展望、そして失敗談に至るまで堂々と発表してくれました。お疲れ様でした！

生徒の声 :

「1年間のまとめができた。自分で振り返って見ると様々な人にお世話になっていて感謝の気持ちが出てきた。グッジョブカードがあたたかくて嬉しい！」

「自分のやりたいことを外に出してみたら、誰かのNeedsにぶつかるかも」

「感想で共感して下さった大人の方がいて、グッジョブカードでは3年生の方が自分の経験と合わせて共感してくれていて、少なからず伝わった人がいて嬉しかった」

6 状況写真



「白い森未来探究学」1 学年地域文化学
地域に浸る講座(5)

- 1 期日 : 令和4年2月15日
- 2 時間 : 5~6 時間目 (13:25~15:15)
- 3 場所

A: ゲストハウス Tabetai House Omiya

B: 大宮子易両神社

C: (有)小国町農業振興公社

- 4 参加者 : 1 年 1 組 15 名

- 5 内容 :

● 講師 A: 吉田悠斗氏(おぐにマルチワーク事業協同組合 代表理事)
講師の地域おこし協力隊の活動について/シェアハウス及びシェア畑について/
マルチワーク事業について

● 講師 B: 遠藤成晃氏(大宮子易両神社 宮司)
神社の役割について / 神社内案内ツアー

● 講師 C: 高橋潤一氏((有)小国町農業振興公社 社長)
商品を加工する過程を見学 / 高校生から商品開発アイデア出し

生徒の感想 :

「吉田さんは自分より小国の魅力を知っていて、小国で複数の仕事に関わっています
すごいと思いました」

「大宮神社の歴史は1310年と長くて、小国に奈良時代からある神社があることを知る
ことができ良かったです」

「農業校舎さんのお話を聞いて、色々苦労して商品開発されたことを知りました。キ
ャンプ餅が流行した理由がよくわかりました。」

6 状況写真



1 学年ハタラトーク！（若手社会人との懇談会）

1 期日：令和4年2月22日(火)

2 時間：5～6時間目（13:25～15:15）

3 場所：被服室

4 参加者：1年1組12名、社会人12名

講師：株式会社プラスアート代表 新田 卓 氏

5 内容：

小国高校生と小国町内の若手社会人の懇談会「ハタラトーク」を開催。企業や公共機関に勤務する若手社員や個人事業主の方など12名をお迎えし、1年生12名と「働くこと」についてグループディスカッションを行った。6グループに分かれ、生徒は「どんな仕事か」「休日は何をしているか」など業務内容からプライベートまで質問。

生徒の声：

「働きながら自分の苦手なことを克服できるなどプラスの印象が増えた」

「働くとは、給料を貰うためだけではなくいろんな意味がある！」

「生きるために働くのは大事。働くことは大変なことばかりじゃないとわかった。高校生のうちにいろんな職業を調べたい」

「高校一年生の時に働くことを全く考えてなかったとおっしゃっていた社会人の方が多かったように思います。こういう機会があることはレアだと感じました」

7. 状況写真



1 学年家庭総合「小国町の未来を考える SDG s ワークショップ」

- 1 期 日 : 令和 4 年 2 月 15 日 (火)
- 2 時 間 : 10:00~12:00
- 3 場 所 : おぐに開発総合センター 集会室
- 4 参加者 : 1 年 1 組 12 名、社会人 12 名
- 5 内 容 :

SDGs の本質を理解し、その視点を業務活かすために 16 名の職員と小国高校 1 年生 16 名が合同でワークショップを行った。高校生が SDG s について授業で学んでいる内容を職員にプレゼンし、職員から施策を踏まえたフィードバックを受けることにより、双方の取組みを理解し、さらに町の課題や現状と SDG s を結びつけ、より身近なこととして捉えることができた。また、職員と高校生が共に「持続可能な小国町」のためにできることについて意見を出し合い、自分たちが実行できる具体的なアイデアを共有した。

6 状況写真 :



2年保健「労働と健康」地域連携授業

1 期 日 : 令和4年2月25日(金)

2 時 間 : 5~6校時 13:25~15:15

3 場 所 : クアーズテック株式会社 体育館、小国高校教室

4 参加者 : 2年1組26名、教員2名、CN3名

クアーズテック講師: 加藤孝則氏、井上勝裕氏、今玲子氏、今朋子氏

5 内 容 :

クアーズテック株式会社小国事業所様の全面協力により、労働災害・ワークライフバランス・福利厚生についての授業を実施。Web会議システム Teams を利用し、レポーター生徒2名が実際の現場で体感したことを学校にいる仲間へ中継し、間違い探しや単純作業テスト、休暇・勤務制度紹介、若手社員の仕事と余暇の過ごし方紹介など、社員の方々が熱弁。

教科書や先生の話だけではイメージが難しかったものも、実際に見て、事例を紹介していただき、理解が深まった。

生徒の感想:

「仕事をする一人一人が安全に対する意識を高く持つことが必要になるのだと学ぶことができました。貴重な仕事現場も見ることができてよかったです」

「勤務体制や作業時に注意していることなど、幅広く説明を聞いたので、「働く」ということをリアルに知ることができました」

「防護服の着用や重さ比べなど、体験できることが多く、内容を工夫していただいたのが分かってとてもありがたかったです」

「ワークライフバランスがとれていることで、仕事の質も変化していくのではないかと、重要性を感じることができました」

「印象に残ったのは on と off の切り替えが大事ということ、これから気をつけて生活していきたいと思います」

6 状況写真:



2. 全国小規模校サミットの取組

2021

第4回全国高等学校小規模校サミット



日時：10月23日(土)9:30～17:00
会場：オンラインにて開催

主催 全国高等学校小規模校サミット実行委員会
共催 小国高校を支援する会
後援 山形県小国町 小国町教育委員会 山形県教育委員会
小国高校同窓会 小国高校後援会 小国高校 PTA
指導協力 東北芸術工科大学デザイン工学部コミュニティデザイン学科

記 録

[目 次]

◇はじめに（謝辞）	P1
◇小規模校サミット概要	P2～3
◇10/22(金)前夜祭「参加者交流」	P3
◇受付・開会式	P4～5
◇セッション1（参加校取り組み紹介）	P6～8
◇セッション2（講演）	P9
◇セッション3（生徒交流～ワークショップ～）	P9～11
◇YouTube 配信・大人ワークショップ	P12
◇閉会式	P13
◇参加者アンケート集計結果	P14～17

◇はじめに（謝辞）



全国高等学校小規模校サミットコアメンバー 青木 蒼空 (小国高校)

今年の小規模校サミットの目標は、「それぞれの思いを込めたつながるサミット」です。小規模校サミットは今年も新型コロナウイルスの影響でオンライン開催となりました。オンラインで開催できるということで、より多くの全国の仲間と「つながる」、来年、再来年、その後に「つながる」サミットを目指して準備をしてきました。

コアメンバーは夏休みから研修を重ね、今年で2回目となるオンラインサミットはどんなサミットにしたいのか、サミットが終わった後、参加してくれた人になんか思いを持ってほしいのかを話し合い、目標を立てました。去年は新型コロナウイルスの影響で準備期間が短かったため、Zoomの操作やオンライン上のコミュニケーションに慣れないまま本番を迎えた人も多く、大変な部分もありました。そこで今年は参加して下さる皆さんと今年のサミットの概要や、Zoomの操作について、オンラインで話す際に特に大切になってくるジェスチャー・リアクションなどについて話したり、実際にやってみたりする研修を行いました。本番でみんなと楽しく話すことができるように、また、サミットに向けての意欲を高めるとい意味でもとても大切な研修になりました。ファシリテーション研修も行い、小国高校のファシリテーターと他校のファシリテーターの皆さんに参加していただきました。このファシリテーター研修で当日のワークショップのイメージをして準備を進めることができました。他にも、小国高校のコアメンバーは係ごとにパンフレットやグッズの制作、前夜祭の運営などたくさんの準備をして本番に臨みました。

本番は、研修の成果もあり、たくさんの方に楽しんで頂けて嬉しかったです。特に閉会式が終わった後に、みんながなかなか退出せず、ずっと手を振ってくれていたのが印象に残っています。「楽しんでもらえてよかった」「みんなで頑張ったよかった」と強く感じる事ができました。

今年も楽しく、実りあるサミットにできたのは参加してくれた皆さん、力を貸して下さった先生方、地域の方々、東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科の方々などたくさんのご協力があったからです。貴重な経験ができました。来年は是非直接会いたいです！本当にありがとうございました。



全国高等学校小規模校サミットコアメンバー 和田 彰白香 (小国高校)

今年度の第4回小規模校サミットは、本来であれば直接、全国の仲間と出会い交流をしたかったのですが、昨年に続きオンラインでの開催となりました。昨年、オンラインでのサミットを経験していたため、その盛り上がりを超えるような、さらにレベルアップしたサミットを作り上げていけるようにコアメンバー全員で準備を重ねてきました。

今回の小規模校サミットは、「お悩み相談」をテーマにワークショップをしました。事前にアンケートでお悩みを募集し、そのうち1つの悩みについてグループで考えを出し合いました。「小規模校の良さを知ってもらうには？」といった学校に関することや「幸せって何だろう？」といった哲学的なこと、「田舎ならではの趣味を見つけるには？」といった地域のことなど、多方面からの様々な悩みが出てきました。難しい悩みに対して、初めはなかなか意見が出なかったり、どう進めたらいいのかわからなかったりしていました。しかし、研修を重ねたことや自分以外の意見を受け入れる優しい雰囲気、上手にまとめることをゴールとせず全国的仲間と対話することを一人ひとりが大切にすることで、徐々に意見が出てきて、とても活発なワークショップになりました。自分一人では思いつかなかった仲間の考えに触れたり、自分の考えとの共通点を見つけ出して新しいアイデアを生み出したりして、とても盛り上がりました。お悩み相談の他にも、アイスブレイク、参加校取り組み紹介などを通して、全国の仲間との仲も深まり、他校の魅力についても知ることができました。

小規模校サミットで、一人ひとり違った考えに触れて、さらに良い考えを生み出すことができる力、笑顔があふれて心が明るくなるなど、みんなと集まったことで、つながったことで一人ひとりの力が合わさり、大きな力が生まれることを感じました。サミットの運営に携われたこと、全国の仲間とつながり充実した時間を過ごすことができたことが本当に楽しく嬉しかったです。準備期間からずっと私たちを支えて下さったすべての方々から心から感謝しています。小規模校サミットを通して、学んだことをこれからの学校生活、今後の生き方に活かしていけるように努力を重ねていきたいです。最高の思い出を本当にありがとうございました。

◇小規模校サミット概要

【大会趣旨および主題】

- ～小規模校同士、誇りを持ち、かかわりあいで新たな発見を～
- 趣旨：全国の小規模高校の生徒が交流し親睦を深めると共に、各校・地域が抱える課題について意見交換し、将来それぞれの地域で活躍する資質や能力、協働意識を育成する。
- 主題：「今ここで起こっていることは、将来日本中で起こり得ること、小規模だからこそできることがきっとある」
～仲間と一緒に未来を考えよう～
- 主催：全国高等学校小規模校サミット実行委員会
○共催：小国高校を支援する会
○後援：山形県小国町 小国町教育委員会 山形県教育委員会
小国高校同窓会 小国高校後援会 小国高校PTA
○協力：東北芸術工科大学デザイン工学部コミュニティデザイン学科



【日程および内容】

令和3年10月22日(金) オンラインにて開催

日程	プログラム
18:00 ～19:30	前夜祭「参加者交流」

令和3年10月23日(土) オンラインにて開催

日程	プログラム							
9:30	開会式 ※YouTube 配信							
9:50	セッション1【参加校取り組み紹介】 ※1ルームのみ YouTube 配信 分科会発表							
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>1ターム</th> <th>2ターム</th> <th>3ターム</th> <th>4ターム</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>長野・軽井沢高校 高知・大方高校 北海道・標茶高校 山形・左沢高校 福島・猪苗代高校 山形・小国高校</td> <td>宮城・志津川高校 山口・防府高校佐波分校 岩手・住田高校 山形・新庄南高校金山校 北海道・鶴川高校 島根・吉賀高校</td> <td>岩手・大船高校 宮城・岩ヶ崎高校 広島・大崎海星高校 山形・新庄北高校最上校 熊本・小国高校 山形・荒砥高校</td> <td>山形・小国高校 山形・遊佐高校 広島・油木高校 三重・飯南高校 沖縄・本部高校</td> </tr> </tbody> </table>	1ターム	2ターム	3ターム	4ターム	長野・軽井沢高校 高知・大方高校 北海道・標茶高校 山形・左沢高校 福島・猪苗代高校 山形・小国高校	宮城・志津川高校 山口・防府高校佐波分校 岩手・住田高校 山形・新庄南高校金山校 北海道・鶴川高校 島根・吉賀高校
1ターム	2ターム	3ターム	4ターム					
長野・軽井沢高校 高知・大方高校 北海道・標茶高校 山形・左沢高校 福島・猪苗代高校 山形・小国高校	宮城・志津川高校 山口・防府高校佐波分校 岩手・住田高校 山形・新庄南高校金山校 北海道・鶴川高校 島根・吉賀高校	岩手・大船高校 宮城・岩ヶ崎高校 広島・大崎海星高校 山形・新庄北高校最上校 熊本・小国高校 山形・荒砥高校	山形・小国高校 山形・遊佐高校 広島・油木高校 三重・飯南高校 沖縄・本部高校					
12:00	昼食休憩							
13:20	セッション2【講演】 ※YouTube 配信 演題「対話のチカラ」 講師 東北芸術工科大学デザイン工学部コミュニティデザイン学科 准教授 岡崎 エミ 氏							
14:00	セッション3 【生徒交流～ワークショップ～】 テーマ「お悩み相談をしよう！」	【大人ワークショップ】 全体講演、お悩み相談室						
16:50	閉会式							

【参加者】

北海道	
北海道標茶高等学校	高校生3名
北海道鶴川高等学校	高校生2名
岩手県	
岩手県立大館高等学校	高校生10名
岩手県立住田高等学校	高校生7名
宮城県	
宮城県志津川高等学校	高校生7名
宮城県岩ヶ崎高等学校	高校生7名
山形県	
山形県立左沢高等学校	高校生2名
山形県立荒砥高等学校	高校生11名
山形県立小国高等学校	高校生65名
山形県立新庄北高等学校最上校	高校生7名
山形県立新庄南高等学校	高校生4名
山形県立新庄南高等学校金山校	高校生7名
山形県立遊佐高等学校	高校生2名
福島県	
福島県立猪苗代高等学校	高校生9名

長野県	
長野県軽井沢高等学校	高校生4名
三重県	
三重県立飯南高等学校	高校生5名
島根県	
島根県立吉賀高等学校	高校生3名
広島県	
広島県立大崎海星高等学校	高校生2名
広島県立油木高等学校	高校生6名
山口県	
山口県立防府高等学校佐波分校	高校生5名
高知県	
高知県立大方高等学校	高校生9名
熊本県	
熊本県立小国高等学校	高校生12名
沖縄県	
沖縄県立本部高等学校	高校生2名

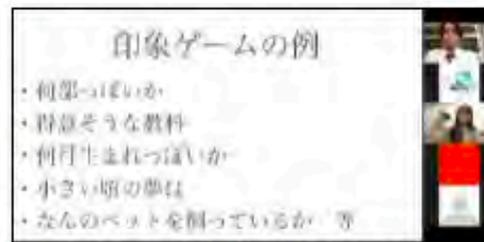
※ 参加高等学校 23 校 高校生 191 名

◇10/22(金) 前夜祭「参加者交流」

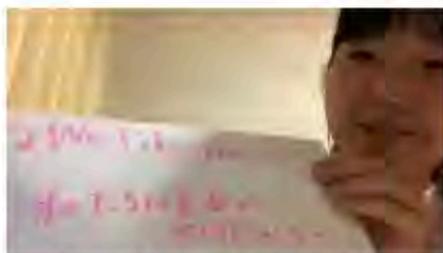
「サミット本番に向けてモチベーションを上げていこう!」という目標のもと、前夜祭がスタートしました。まず、グループに分かれて自己紹介を行い、その後アイスブレイク「印象あてゲーム」をしました。続いてグループ名をつけ、「ご当地クイズ」に挑みました。北は北海道、南は沖縄県まで参加者が集まるサミットということもあり、互いの地域について知る良い機会になりました。1時間半という短いイベントでしたが、グループ内を中心にたくさん対話ができ、翌日へ向けての良い時間が過ごせました。



前夜祭コアメンバーには山形小国4名の他に4校9名が立候補してくれて準備を進めました



アイスブレイクは「印象あてゲーム」



グループ名を話し合っていました



19校125名の方が参加してくれました

◇受付（歓迎）

山形小国コアメンバーの一体感づくり係が作成した手作りのリストバンドを身に付けて、画面の前にスタンバイ。参加メンバーが「入室」してくるたびに笑顔で迎え入れていました。



◇開会式

開会式ではメインファシリの自己紹介、実行委員会代表の挨拶、オープニングムービー、開会宣言が行われました。



メインファシリテーターの山形小国2年の青木蒼空さんと和田彩日香さんが進行

【歓迎の言葉】

○全国高等学校小規模校サミット実行委員会生徒代表（小国高校生徒会長） 今野 優希



～きらめけ！小規模校、笑顔の星よ！～

参加校の皆さん。今日は参加していただきありがとうございます。今回の第4回小規模校サミットには191名の高校生が参加します。昨年と同様にオンラインでの開催となりましたが、全国の仲間とまた顔を合わせられたこと、とても嬉しく思います。

さて、「DOLPHIN」のグランドルールのもと、コアメンバー18名が小規模校サミットを盛り上げるために頑張ってきてくれました。コアメンバーの後輩たちの元気さには見習うべき点がたくさんあり、彼らから小国高校生一同インスピレーションをもらい、とても盛り上がっています。今回は、お悩み相談という形で全国の仲間とワークショップを行います。ファシリテーションからグラレコまで生徒が行い、一切小規模校と思わせないような盛り上がり期待できます。年に一度しかないこの関わりを、楽しまないもったいない！全国の高校生みんなで、本当に楽しかったと笑顔で終えられるように、笑顔を絶やさずイキイキとやっていきましょう！

【オープニングムービー上映】



山形小国高コアメンバーのウェルカム係4名が進行



参加校の協力を得て作成したウェルカムムービーがスタート！



各校から提供いただいた「二つ名」と写真で、参加校23校すべてを紹介（一部抜粋）

【開会宣言】

Zoomを通じて全国の参加校に開会宣言がなされました。



～宣言文～

僕たちは今までの練習通り
みんなで仲良く
真面目なときは真面目に
楽しむときは全力で楽しむ
そんなサミットにすることを誓います

令和3年10月23日

大方高校 2年 松岡 渉太

◇セッション1

【アイスブレイク：さくらんぼ体操・自己紹介】

セッションに先立って、メインファシリテーターよりサミットのグランドルール「DOLPHIN」についての確認や「リアクション図鑑」による反応の仕方の説明があり、その後ランダムにできたグループで自己紹介をして交流の輪を広げました。

サミットのグランドルール『Dolphin』

Dynamic 力強くいきいきと

Over reaction 伝わりやすいリアクションで

Love 愛を持って

Pride 小規模校の誇りを

Heartful 心温まる雰囲気

Image 相手をイメージしよう

New 新しい価値観、新しい自分を見つけよう





「さくらんぼ体操」によるアイスブレイク
皆さんが楽しげに踊ってくれていました



ランダムで集まった4人で自己紹介



「死ぬまでにやりたいこと」や「地元の推し」なども紹介しあい、とても盛り上がりました



【参加校取り組み紹介】

「小規模校の強みを生かした取り組み」「地域と協働している取り組み」「オンラインを活用した取り組み」などのテーマにそって、各参加校の発表が行われました。（画像は一部抜粋）



参加者が好きなルームに分かれて、みんな真剣に発表を聞きました



発表の場の進行は各校コアメンバーが担当

■仮説

【仮説】
ロケ地の中間に位置する「南三陸町」でも、『おかえりモネ』効果がある。

みなさんどう思いますか？
リアクションをお願いします！

①効果○ ②効果△ ③効果×

クイズも交えて楽しく紹介（宮城県志津川高校）

アポ電！！

- お店に取材の許可取り
- 取材日時の調整

なかなか一回の作業では

大変！！



ラジオ局と協力して一からラジオを制作した活動について紹介（長野県軽井沢高校）



大館町キャラクターの「おおちゃん」も参加（岩手県立大館高校）



県外から入学した地域留学生在が高校の魅力を紹介（山形県立遊佐高校）

新編バスケットボールのニューで

11月17日
生徒会・家庭クラブ
校庭分枝全校制作

徳地地域の魅力アップを図る活動を紹介（山口県立防府高校佐波分校）

本部高校について

山形県の高島高との遠隔連携授業などを紹介（沖縄県立本部高校）

参加校取り組み紹介

チーム	ルーム NO.	参加校	タイトル
チーム1	1	長野県・軽井沢高校	関わる・つながるチーム軽高
	2	高知県・大方高校	NO HERE NOW HERE
	3	北海道・標茶高校	地域の人と関わって自分も標茶も深堀り！！
	4	山形県・左沢高校	地域の方と創り上げる左沢高校
	5	福島県・猪苗代高校	猪苗代高校～地域探究での取り組みについて～
	6	山形県・小国高校	小国高校推してもろて
チーム2	1	宮城県・志津川高校	朝ドラは南三陸に影響を及ぼすのか
	2	山口県・防府高校佐波分校	地域連携 SABA チャレンジ
	3	宮城県・岩ヶ崎高校	岩ヶ崎高校学校紹介
	4	山形県・新庄北高校金山分校	絢爛の金山校
	5	北海道・釧路高校	多くの特色伝えます！！
	6	島根県・吉賀高校	小さな学校で、大きな夢を
チーム3	1	岩手県・大槌高校	#魅力を伝えたい
	2	広島県・大崎海星高校	こんにちは！みりょくゆうびんきょくです！
	3	岩手県・住田高校	オンライン体験入学 with 個性豊かな住校生
	4	山形県・新庄北高校最上校	地域を支え、地域に愛される最上 2021
	5	熊本県・小国高校	小規模校だからできること～熊本小国で青春してみない？～
	6	山形県・荒砥高校	#荒砥
チーム4	1	山形県・小国高校	小国高校推してもろて
	2	山形県・遊佐高校	遊びしかかたん
	3	広島県・油木高校	自己評価 75 点
	4	三重県・飯南高校	応援団 Circle
	5	沖縄県・本部高校	越境プロジェクトについて

◇昼食休憩



画面から離れてリフレッシュ！



昼食は各学校で食べました

◇セッション2

【講演】 演題 「対話のチカラ」

講師 岡崎 エミ 氏（東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科准教授）

<要旨>

対話とは、自分の言葉を通して何かを相手に届け、相手はそれに対する考えを言葉で届け、そしてその意味が往復しながらそれぞれの体の中、心の中に響き、気づきや成長を与えてくれるものです。対話は、私たちが思っている以上にパワフルなもの。

例えば、南アフリカの人種隔離政策は、対立する人種や部族同士が、アダム・カヘンというファシリテーターとともに、対話を重ねることで課題解決につながった好例です。つまり、どんな難しい課題も、まずは対話することから解決への道が開けていく可能性があるということです。

これからの時代は、唯一解が用意されている時代ではありません。最適解を自ら生み出すことが求められている時代です。そのためには、多くの知恵を持ち寄る必要があるため、対話には多様性が重要となってきます。年齢や育った環境、様々な考えを抱く人たちとの対話により、思いもよらなかった答えを生み出すことができるかもしれない。まったく新しい自分を見つけることにつながるかもしれません。

この小規模校サミットはまさにそれを可能とする場です。違う地域、多様な考え方、様々なバックグラウンドをもつ高校生たちがここに集まっています。ファシリテーターの人たちはうまくまとめられるかと不安になっているかもしれませんが、信じてほしいです。ここに参加している人たちはみないい聞き手であり、いい話し手であるということを。この場は特別で、大切な場です。語られる声に耳をすまし、そして自分の心の声を勇気をもって出してほしいと思います。

さあ、対話を楽しみましょう。そして、新しい自分に出会いましょう。



◇セッション3

【午後のアイスブレイク】



午後のスタートとして、みんなで「エビカニクス」を踊りました

【生徒交流～ワークショップ～】 テーマ「お悩み相談をしよう！」

9つのお悩みテーマについて、32のグループに分かれてワークショップを行いました。

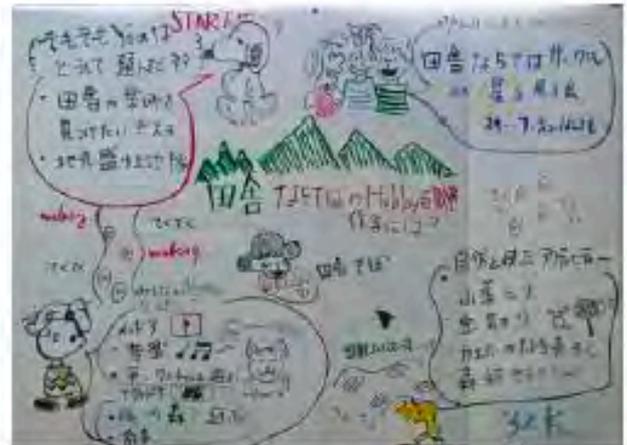
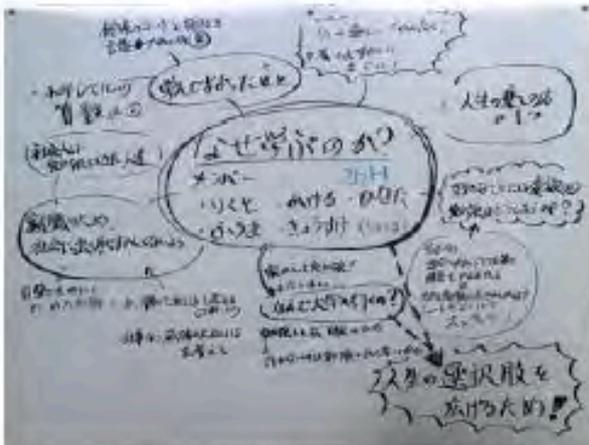
- 1 「小規模校の良さを知ってもらうには？」
- 2 「小規模校でも学校祭を盛り上げるには？」
- 3 「将来の夢を決める上で一番大事なことは？」
- 4 「限られた環境でどう理想に近づくか？」
- 5 「コミュカをつけるには？」
- 6 「みんなの幸せと自分の幸せ」
- 7 「高校生が企画するコロナ禍でみんなが楽しめるイベントは何か？」
- 8 「なぜ学ぶのか？」
- 9 「田舎ならではの趣味をつくるには？」



全国各地にいるチームメンバーが、離れていても共通のこと、共感できること、違っていることなどを感じながら様々なアイデアや意見を出し合いました



山形小国高校生とOB・OG、地域の方々、東北芸術工科大学学生などがグラフィックレコーディングをしながら、ときにアドバイスしてくれて話し合いをサポートしてくれました



グラフィックレコーディングで対話を見える化し、サポートしていただきました

◇ YouTube 配信・大人ワークショップ

○ プログラム

YouTube 配信（ライブ配信）：開会式、参加校取り組み紹介、全体講演

大人ワークショップ：サミット概要説明、生徒交流の参観、大人向け全体講演、お悩み相談室

○ 大人向け全体講演

講師：三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング上席主任研究員 阿部 剛志 氏

演題：「地域×学校（高校）の意義を改めて考えてみよう

～なぜ、協働していく必要があるのだろうか～」

○ 大人のお悩み相談室

ルーム1 「高校魅力化の始め方、進め方」など

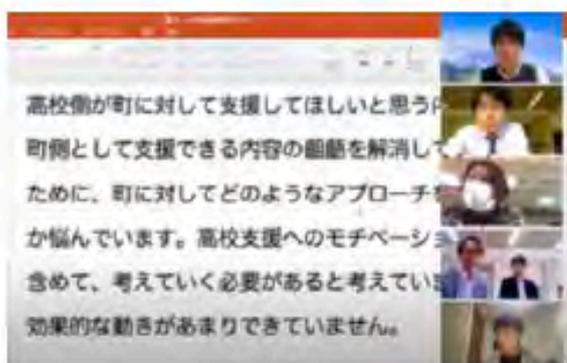
講師：岡崎 エミ 氏（東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科）

ルーム2 「総探の進め方、地域の方の巻き込み方」など

講師：牛木 力 氏（東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科）

ルーム3 「行政と学校の連携について」

講師：横山 真由美 氏（小国町総合政策課）・高橋 俊典 氏（小国町教育委員会）



◇閉会式

山形小国高3年ムービー係が作成したサミット当日の活動をまとめたショートムービーを鑑賞しながら振り返り。その後、各校の代表と司会の2名から、今日の活動を終えての感想を伝え合い、参加者全員と熱い思いの共有をはかりました。



閉会式終了後、オンライン画面で記念撮影し、全日程を終了しました。

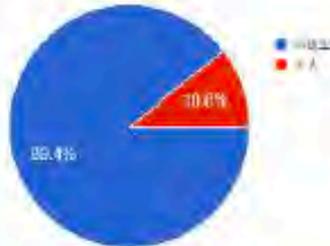


全国各地よりお集まりいただき、本当にありがとうございました！

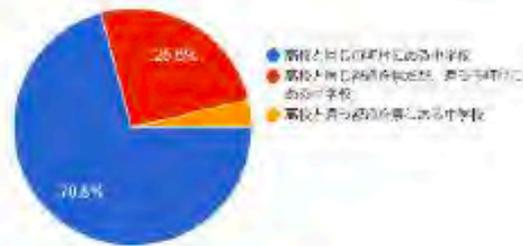


◇第4回 全国高等学校小規模校サミット参加者アンケート集計結果

1. 回答者属性



高校生の出身中学校



2. 周囲の環境 (複数選択可)

- ①将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる ②地域から大切にされている雰囲気を感じる
 ③地域の人や課題などに直に触れる機会がある ④自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある
 ⑤地域に尊敬している・憧れている大人がいる ⑥上記のどれも当てはまらない

【高校生】



【大人】



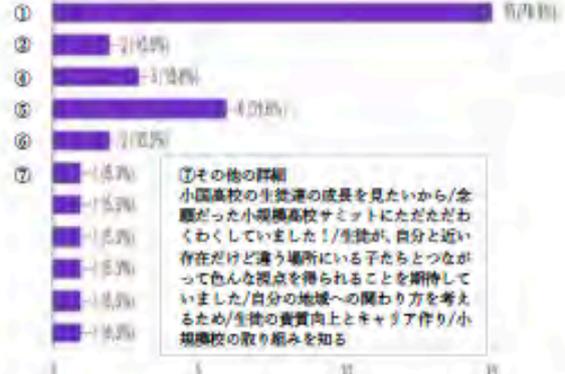
3. サミットへの期待 (複数回答可)

- ①学校外の人と交流すること ②悩みを共有すること ③グループで協力しながら学ぶこと
 ④自分の地域の魅力や資源について考えること ⑤自分の地域の問題の解決方法について考えること
 ⑥思い出作り ⑦その他

【高校生】



【大人】



⑦その他の詳細
 小国高校の生徒達の成長を見たいから/全
 体だった小規模校サミットにただただわ
 くわくしていました！/生徒が、自分と近い
 存在だけど違う場所にいる子たちとつなが
 って色々な視点を得られることを期待して
 いました/自分の地域への関わり方を考え
 るため/生徒の資質向上とキャリア作り/小
 規模校の取り組みを知る

4. サミットを通して得られたこと（複数選択可）

- ①学校外の人と交流できた ②悩みを共有できた ③グループで協力しながら学ぶことができた
 ④自分の地域の魅力や資源について考えることができた
 ⑤自分の地域の問題の解決方法について考えることができた ⑥思い出ができた
 ⑦視野が広がった ⑧自分に自信がついた ⑨その他

【高校生】



【大人】



5. 感想（一部抜粋）

【高校生】

- ・自分が話すことが苦手でも失敗していい雰囲気だったり、たくさんリアクションしてくれてとても話しやすかった。
- ・交流は楽しいし、悩みを打ち明けることで自分に自信が持てるし、成長できたように感じた。
- ・自分は高校に入ってからやりたいことが見つからないことに悩んでいたのですが、サミットを通して自分のやりたいことの方性について、考えを深めることができました。
- ・今回初めての参加でしたが、あまり緊張せず頑張ることができたし、自分は人と話すのが苦手だったけど、小規模サミットのおかげで、苦手だったことを少しでもなくすことができ良かったです。そして、小国高校はじめたくさんの高校の皆様ありがとうございました。
- ・普通に生活していたら交わらない人とも交流できたので良かったです。
- ・小国のファシリテーターの方のファシリがうまくて、自分もこうなりたと思いました。
- ・初めてのサミットでとても緊張していましたが、すごく楽しかったです。色々な学校の取り組みを見てると自分の学校はまだまだだなと感じたし、真似できそうなことがいっぱいありました。またグループでの話し合いは自分にはない意見を聞いて良かったです。
- ・自分のコミュニケーション力も少しは鍛えられたと思うし、違う視点や意見を取り入れられたので、とても、有意義で楽しい時間になったなと感じました。ありがとうございました。
- ・自分の高校の魅力を確認することができましたし、他校の魅力ある特色に触れることができとてもよい機会でした。グループでは色々な話し合いができて楽しかったです！！
- ・自分の価値観や自己肯定感を大きく変えることができた。また、今まで感想とか当てられても焦って意味わからないことを言っちゃったりしてたけど、参加前と比べると感想とかもベッと言えるようになって成長したなと思った。
- ・今年もオンラインでの開催でしたが、楽しく交流できたと思います。ワークショップでのファシリテーターは不安と緊張でいっぱいでしたが、同じチームのメンバーの方や大学生にたくさん助けていただいて進めることが出来ました。ですが、問題解決に集中してしまい、対話という形をあまり大切に出来なかったのが経験を活かして直していきたいです。

- 自分はみなさんのおかげで視野が広がりました。他校の皆さんも何か学べることだったり自分の中で、プラスになるものがあったなら、サミットは本当に意味のあるものだったと思うし、またやりたいと思います。
- 今回初めてサミットに参加して、準備から色々大変な事があって、本番も最初ほうまく話せずにいたけれど主催校である山形小国高校の生徒さんたちが楽しく盛り上げてくれて最後まで楽しめました！みんな同じような悩みを持っていて、自分だけじゃないことに安心したし解決に向けてがんばろうと思いました！
- アイスブレイクなどの企画のおかげで初対面の人とも緊張せずに話せるようになったり、自分の意見に自身を持って発表できるようになりました！！
- サミットをして積極的に自分から話せるようになったし質問とかできるようになった
- 素敵な活動をしている高校が沢山あって自分たちの高校もこういう取り組みがしたいと思った。また、色んな人と交流ができて普段できないような経験ができて良かった。

【大人】

- 来年は、小国町を訪問したい。
- オンラインで可能な内容を練り上げて準備いただき感謝いたします。何より、終わった後の生徒の充実感たっぷりの表情が全てを語っていました。主催の山形小国高校の皆様には4回とも本当にお世話になり、感謝いたします。たいへんお疲れ様でした！
- 小規模校の価値、良さをあらためて感じた会でした。とくに対話について。山形小国さんのはじけるような明るさの背景にある対話の姿勢や先生方の前向きさを感じましたし、そういった学びの土壌の大切さも岡崎さん・阿部さんのお話を通じて大人にもシェアされた場だったと思います。小規模校で発見されやすい良さを、中規模・大規模の学校にもつないでいくことも大切だと思います。このコミュニティで暖めている大切な知見を、日本全国にシェアするために私もできることを頑張りたいと思いました。
- 運営の皆さん本当にありがとうございました！！大変お疲れ様でした！！生徒たちの雰囲気 genuinely 素敵で交ざりたい思いを我慢するのが大変でした。
- 2回目の参加でしたが、いつも生徒が成長して、学校に学びを還元しています。ありがとうございます。
- ぜひ山形県内の高校からオフラインでの交流会を実施したいです。
- 終わった後に生徒と簡単に振り返りをしたのですが、午前中のワークや講演を聞いて感じたことを午後からのワークで実践できたという生徒がおり、他の生徒も新たな気付きがあった様だったので、生徒の成長が見られて良かったです。
- 運営、大変お疲れ様でした。段々と規模も大きく充実した内容となり、参加する側も（生徒の傍らで覗きながら）ワクワクします。貴重な機会をありがとうございました。また来年、楽しみにしています。
- 実際の様子を直に見てみたいと感じました。限られた時間のなかで、さまざま学ばせていただきました。ありがとうございました。
- 小規模校サミットの感想を生徒に聞くと、「楽しい」という回答でした。初めて会う生徒とコミュニケーションをとることが楽しいと思うことは生徒にとっても素晴らしい経験だと思います。このような経験を積極的にさせて、どんな人とも関われる生徒を一人でも多く育てたいと思います。また、取り組み校紹介の中で、本校を推し校に選んでくれた生徒がおり、発表した生徒も実際に活動している生徒もすごくうれしい様子が見られ、自分たちの活動に自信をもつことができました。これも小規模校サミットならではの良さだと感じます。加えて、昨年度も参加した生徒は今年度の活動を振り返っており、自分ができなかったことを考え、次に活かそうとする姿が見られました。生徒の今後にとっても自然と振り返りが行われ、これをきっかけに様々な活動を自分なりに振り返ってほしいなと期待します。
- 小国高校の生徒のコミュ力、ファシリ力が素晴らしい。先生方も一緒になって取り組み、大変だけど楽しんでいる様子が伝わりました。

6. 他にやってみたいこと

【高校生】

- インスタ交換会
- ゲーム、TRPG
- モノマネ大会
- ハロウィンパーティー
- ジェスチャーゲーム
- 年に何回かやりたい
- 学校紹介だけではなく、町紹介もやってみたらいいと思う。
- たたただ雑談をする
- テーマも何も決めていない状態でお悩み相談
- 全員と話したい！！
- 好きなものを語る！みたいな
- みんなと合宿したいです
- もっと楽しいアイスブレイクがやりたい！
- さくらんぼ体操みたいなやつ！
- 皆でしりとり、絵しりとり
- 中学生や外部の人に発信しながらみんなと対話したい。(今回のライブ版?)
- お互いの高校で流行っていることや遊びをする
- オンラインでみんなでお料理
- それぞれの高校がとった映像を繋いで一つのムービーを作る
- 他学校の生徒と動画が作ってみたい。
- 実際に実現させるものを話し合いたい、高校生が爪痕をつけれるようなイベントを
- 学校全体イルミネーション
- 他のブレイクアートルームにも入りたい
- もっと色んな方と関わられるような企画をしたいです！

【大人】

- 今回のような探究学習をどんな風に進めているのか、成果や課題も含めて共有したり一緒に悩んだりできるような場が定期的にあつたらいいのかなと最近思っています！
- 小規模校サミットの趣旨とは逸れてしまうかと思いますが、他校同士の教員と生徒が交流できるような企画があると面白いと思いました。自校以外の生徒から学ぶことも多いかと思います。
- 生徒と大人の対話の時間があっても良いのかなと思いました。
- 大人の探究発表会
- ぜひ実際に集合してみたいと思います。
- 大人のワークショップの中で、4人グループぐらいのブレイクアートルームを設定し、他校の先生方とよりコミュニケーションをとってみたい。
- 思いつきませんが、今回のように大人WSをもっとやってみたいです。

令和3年12月編集
全国高等学校小規模校サミット実行委員会
(山形県立小国高等学校内)



全国高等学校小規模校サミット実行委員会
(山形県立小国高等学校内)

〒999-1352

山形県西置賜郡小国町大字岩井沢 621

☎0238-62-2054

